

令和7年度の取組成果と課題

令和8年1月
内閣官房・消防庁・沖縄県・先島5市町村

令和7年度訓練等の成果

1 航空機避難に係る実効性向上

- 要配慮者の搭乗方法などについて、実地確認や航空機の実機を用いた検証を行い、要配慮者搭乗に係る要領を作成。
- 下地島空港の運用時間を見直し（航空機運用時間の調整による増便）、宮古島市及び多良間村の住民等に係る航空輸送力を強化（708人/日の輸送力を追加）。
- 受入空港（福岡空港及び鹿児島空港）到着後の避難住民等の円滑な陸上輸送に繋げるため、関係機関との調整のもと、ターミナル内の誘導動線やチャーターバスの運用方法、関係機関の連携体制等を具体化。

2 船舶避難に係る実効性向上

- 近海区域（沖縄本島－宮古島間）を航行可能な民間船舶を新たに2隻確保（やいま丸、だいとう）。
- 船舶内における要配慮者搬送の基本的考え方や乗船可能人数の一案の整理、民間チャーター船のモデル検討を通じた車両甲板の活用方法等の整理。
- 経由港（那覇港）における使用岸壁や乗継のための誘導方法、乗換経路等についての一案を整理。
- 受入港（鹿児島港）における沖縄本島－鹿児島間の運航ダイヤの一案の作成、到着後の誘導パターン等の一案を整理。

3 要配慮者避難に係る実効性向上

- 要配慮者の健康状態等に応じた7分類について、分類ごとの具体事例の整理や関係者間の認識共有を図った上で、対象人數を再整理し、当該分類に応じた避難手段及び付添支援体制を整理。
- 担送3（重症患者）の搬送のために必要なアセットの諸元・特性等の整理及び搬送フローの一案を作成。
- 避難先へ共有する要配慮者に関する情報及び避難時における情報共有体制・共有方法の一案を整理。
- 在宅酸素療法患者・精神疾患患者の避難手段の一案を整理（必要資機材の検討、避難誘導の流れ）。

4 市町村避難実施要領の精緻化

- 石垣空港の実地確認（令和6年度）で明らかとなった課題を踏まえ、宮古空港で実地確認を実施（31機関、292人参加）
バス乗車から空港到着、航空機搭乗直前までの一連の流れ等の改善案を確認し、空港での避難手順・動線を精緻化。
- 要配慮者の7分類ごとに3つの代表事例を設定し、先島5市町村における必要な支援、経路、搬送手段等の考え方を整理。
- ペットの避難について、同行避難以外の方策として一度に大量の輸送が可能な貨物船による輸送方法の一案を整理。
- 宮古島市においてオープンハウス型を取り入れた住民意見交換会の実施。
- 先島5市町村における電力、水道などのライフラインを含む避難最終段階の流れの一案を整理。

令和7年度訓練等の課題

1 航空機避難に係る実効性向上

- 現地調整所（避難元空港と受入空港、JHTC）間、各対策本部等の連携要領の整理。
- 航空機に搭乗する避難者情報の共有要領の整理。
- 保安検査要員等の応援確保。

2 船舶避難に係る実効性向上

- 近海区域（沖宮海峡）を航行可能な船舶の確保及び候補船の最大限の活用について継続検討。
- 港湾における避難誘導要領案について、市町村の避難実施要領や要配慮者の検討を踏まえて一案を整理。

3 要配慮者避難に係る実効性向上

- 応援人員派遣体制、医療資機材等の供給体制に関する具体的検討。
- 担送3（重症患者）の搬送フローの具体化。
- 避難元・避難先における対策本部（災害保健医療福祉調整本部）体制及び情報共有ツールの継続検討。

4 市町村避難実施要領の精緻化

- 島内輸送体制の確保、誘導する市町村職員の職員配置案の検討。家畜・ペット、荷物の別送等の継続検討。
- 各島の避難最終段階における避難要領の更なる具体化。

令和8年度、国重点訓練（図上・実動）に係る調整において課題を検討・整理